

建築文化週間

AIJ

かえり

みる

方法

Architectural

Culture

Week

2026

140th
1886-2026

THEME

SYMPOSIUM

EXHIBITION

TOUR

LECTURE

WORKSHOP

主催 日本建築学会

後援 日本建設業連合会 日本建築家協会 日本建築士会連合会 日本建築士事務所協会連合会

協賛 大林組 鹿島 清水建設 大成建設 竹中工務店 梓設計 久米設計 佐藤総合計画 三晃金属工業 東京メトロ 日建設計 日本設計 三菱地所設計 山下設計 NTTファシリティーズ

特別協賛 YKK AP

建築文化週間2026
特設Webサイト

<https://bunka.aij.or.jp/>



2026年9月27日

11月11日

建築会館ホール他、全国各地会場およびオンライン

→ p.10

10月29日[木] 18:00-20:45
建築文化考2026 シンポジウム
「地球のマテリアリティ——テクノロジーが切り離した「土・手・環境」の再縫合」

10月22日[木] - 10月26日[月]
銀茶会
「学生創作茶席」

10月31日 [土] 13:00-17:00
トウキョウ建築まち歩き2026
見学会「早稲田逍遥」

10月23日[金] 18:00-20:00
第51回
「北海道建築賞(2026年度)」表彰式・記念講演会

11月11日[水] 15:00-18:00
構造デザインフォーラム2026
第31回「社会・芸術・技術を紡ぐ構造デザイン」

10月25日[日] 14:00-16:00
講演会
水野一郎先生講演会「金沢の建築と街づくり」

10月17日〔土〕10:00-17:30
 とも参画まちづくりの展開」

本部企画

建築夜楽校2026

シンポジウム

「不動産がもたらす都市の行く末」

日時	10月2日〔金〕18:00～20:30（開場17:30）
会場	建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）およびリアルタイム動画配信
登壇者	講演者 高橋寿太郎（創造系不動産代表取締役／神奈川大学教授） 連勇太郎（CHAR代表理事、@カマタ取締役） 松井一哲（NOT A HOTELクリエイティブディレクター） モデレーター 山本至（itaru/taku/COL共同主宰）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	建築会館ホール 300名（申込先着順） 動画配信 制限なし（事前申込み不要）
参加費	無料
申込方法	建築会館ホール 建築文化週間2026特設Webサイトよりお申し込みください。
視聴方法	動画配信 本会YouTubeチャンネルにて開催当日をご覧ください。 https://www.youtube.com/aijgakkai1886/

都市空間のあり方に対して、今日の建築家はもはや決定権を持っているとは言い難い状況にあります。実際には、デベロッパーや不動産業者による土地利用の判断が、建築家に先立って都市の方向性を定め、その帰結として都市空間が形づくられています。

しかし、都心部では高容積開発が、地方都市では大型商業施設を中心とした開発が繰り返される一方で、それらが本当に都市を豊かにしているのかという根本的な検証は十分になされてきたとは言えません。成熟社会を迎えた現在、そのような開発のあり方も転換期を迎えつつあります。

これからの都市空間を考えるうえで、建築の下流ではなく、その上流に位置する不動産業の視点から都市を捉え直す必要があります。今回は、不動産に関わる多様な専門家や実践者とともに、これからの日本の不動産業のあり方と、その先に生まれる新たな都市空間の可能性について議論します。



Towers of Toyosu by Yano@mama.akaf(r)ne.jp
 Photo: © Commons4U (commons.wikimedia.org)
 CC BY-SA 3.0

本部企画

建築文化考2026

シンポジウム

 「地球のマテリアリティ
 ——テクノロジーが切り離した
 「土・手・環境」の再縫合」

日時	10月29日〔木〕18:00～20:45（開場17:30）
会場	建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20） 展示リアルタイム動画配信の実施を調整中。最新の情報は、 建築文化週間2026特設Webサイトをご覧ください。
登壇者	講演者 篠原雅武（京都大学総合生存学館（思修館）特定准教授） 安森亮雄（東京科学大学教授） 能作文徳（東京科学大学准教授） モデレーター 加藤詞史（加藤建築設計事務所主宰）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	建築会館ホール 300名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	建築文化週間2026特設Webサイトより お申し込みください。

私たちは、いつから「ものの正体」を知らずに暮らすようになったのでしょうか。都市を覆い、さまざまに擬態する石油化学系素材、スマートフォンの滑らかなガラス、カタログ化された建材。現在の生産システムは、それらがどこから来て、どのような手を経てきたのかという「生い立ち」を綺麗に消し去ることで価値化してきました。脱臭され、規格化された「素材」は、もはや地球の一部ではなく、単なる「消費される記号」となっています。

多様な素材が「土（地域）」から切り離され、生産と製造のプロセスから「手（身体）」が消え、建築が地球の「環境（循環）」から孤立してしまった今、子どもから大人まで、都市における生の実感をどこに見出すべきでしょうか。

本シンポジウムでは、テクノロジーの変化が分断したこれらの連関を「再縫合」することの意味を問います。



撮影：加藤詞史

本部企画

建築展覧会2026

 「the lives of ephemeral form
 ——建築の不確かな生を記録する」

期間	10月2日〔金〕～8日〔木〕（予定）
会場	建築博物館ギャラリー内＋中庭（東京都港区芝5-26-20）ほか
出展者	青山道乃（長谷川逸子・建築計画工房） 印牧岳彦（神奈川大学特別助教） 高野ユリカ 塩崎太伸＋小林佐絵子（アトリエコ） 篠田優（明治大学助教） Book Shop Boys キュレーター 桂川大（STUDIO 大／おどり場代表） 稲垣晴夏（東京藝術大学教育研究助手）
対象	どなたでもご参加ください。
参加費	無料
申込方法	事前申込み不要。直接会場へお越しください。
協賛	建築センター CoAK
備考	会期中にさまざまな関連イベントを実施予定です。最新の情報は、建築文化週間2026特設Webサイトをご覧ください。

建築は、恒久性を象徴するものとして長らく捉えられてきました。しかし都市開発を動かす見えにくい力学や経済合理性、外注される生産と技術、枯渇する資源のような外部条件に建築は強く依存し、その基盤が失われれば、いつの間にか消えていく不安定な存在でもあります。

一方で、それらを記録してきた映像や音声などのメディアも、媒体の劣化や再生環境の消失によって、急速に存続の条件を失いつつある（ephemeral）な存在でもあります。

記録は単なる保存ではなく、何を残し、何を残さないかという選択と編集の集積であり、建築の像そのものを構成してきました。物体として、あるいは記録として存在した建築はいかに引き継がれるのでしょうか。

本展は記録という行為そのものを問い直すとともに、読み直し、回復していく協働のプロセスを、空間・時間的に立ち上げることを試みます。



写真：Book Shop Boys

本部企画

カルチベートーク2026

トークイベント

 「GREEN×EXPO 2027から考える
 人と自然の新しい関係——「地球と。
 咲きに行こう。」が意味するもの」

日時	10月14日〔水〕18:30～20:00（開場18:00）
会場	建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）およびリアルタイム動画配信
登壇者	講演者 涌井史郎（GREEN×EXPO 2027ラボチエアパーソン） モデレーター 濱野裕司（竹中工務店常務執行役員）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	建築会館ホール 300名（申込先着順） 動画配信 定員制限なし（事前申込み不要）
参加費	無料
申込方法	建築会館ホール 建築文化週間2026特設Webサイトよりお申し込みください。
視聴方法	動画配信 本会YouTubeチャンネルにて開催当日をご覧ください。 https://www.youtube.com/aijgakkai1886/

2027年3月19日～9月26日、横浜で開催される2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）が掲げるテーマ「地球と。咲きに行こう。」それは、自然を守る対象としてではなく、人と自然が対等に共に未来を創り出すという新たな思想です。今回は、2027年国際園芸博覧会の構想を牽引する涌井史郎氏を迎え、万博の歴史的系譜や国際園芸博覧会の意義、グリーンコミュニティの価値、さらには地球環境市民の再構築という視点からその本質に迫ります。建築・都市・人々はいま、この理念にどう応答すべきか。新たな関係性のかたちを展望します。



提供：(公社) 2027年国際園芸博覧会協会

本部企画

学生ワークショップ2026

展示・ワークショップ

「日本「建築知」の再定義
——過去・現在・未来をつなぐ
アーカイブズの知の循環」

日時	1日目 10月10日〔土〕11:00～19:00 2日目 10月11日〔日〕9:30～19:00 3日目 10月12日〔月・祝〕9:30～19:00 展示 10月10日〔土〕～18日〔日〕
会場	建築会館ホール+建築博物館ギャラリー (東京都港区芝5-26-20)
講師	加藤耕一(東京大学教授/建築史家) 藤本貴子(法政大学専任講師/建築アーキスト) 岩元真明(九州大学准教授/建築家) 勝原基貴(金沢工業大学講師/ 同 建築アーカイヴス研究所研究員) モデレーター 松田達(静岡文化芸術大学准教授) コメンテーター 佐藤安乃(京都工芸繊維大学美術工芸資料館/学芸員)
対象	建築系の学生、建築関係者、 建築学科に興味をもつ中高生、一般市民 (当日の模様はどなたでも観覧いただけます。)
協賛	総合資格学院/総合資格 日建学院/建築資料研究社 ヒラテ技研 キャリアナビゲーション
協力	TONKAN
詳細	募集概要、参加・観覧方法などの詳細は、 建築文化週間2026特設Webサイトを ご覧ください。
問合せ	学生ワークショップ2026専用アドレス archi.gakusei.ws.2026@gmail.com

いま、日本の建築界は大きな分岐点に立っています。かつて世界を席巻した「日本建築」の国際的優位性が揺らぎ、私たちが立脚すべき足場が問い直されています。一方、日本建築学会には140年にわたって積み上げられてきた膨大な「建築知」のアーカイブが眠っています。しかし、これらのアーカイブは、単に現在や未来と分離されて守られるだけの遺産ではなく、危機の状況にあってこそ活用されるべきものです。

本年は、建築アーカイブを大きなテーマとして捉え、過去140年の日本建築学会の蓄積を再編集し、可視化することにより現在・未来へとつなぎます。これらを建築博物館ギャラリーにて展示するとともに、当日はアーカイブや展示をめぐるシンポジウムとワークショップを企画し、ワーク・イン・プログレスで展示の補完を行います。



本部企画

学生グランプリ2026

公開審査

「銀茶会の茶席」

日時	9月27日〔日〕13:30～15:30(開場13:00)
会場	建築会館ホール(東京都港区芝5-26-20)
審査員	審査員長 佃悠(建築文化事業委員会委員長/横浜国立大学准教授) 審査員 本阿彌守光(武者小路千家) 中山勝貴(TANGE建築都市設計社長執行役員・COO) 渡辺麗保(三越銀座店長) 田中和和(全銀座会催事委員長) 鵜飼哲矢(九州大学教授) 佐藤 淳(東京大学教授/佐藤淳構造設計事務所主宰) 多田脩二(多田脩二構造設計事務所代表取締役) 出口亮(大成建設設計本部先端デザイン室 FDL) 濱野裕司(竹中工務店常務執行役員) どなたでもご参加ください。 20名(申込先着順) 参加費 無料 申込方法 建築文化週間2026特設Webサイトより お申し込みください。 主催 銀座通連合会 協賛 ダイナワン 協力 熊本県東京事務所
対象	
定員	
参加費	
申込方法	
主催	
協賛	
協力	

日本建築学会では年に一度、全国の建築学生を対象とするコンペティション「学生グランプリ」を開催しております。毎年10月に銀座通りの周辺で行われる野点大茶会「銀茶会」で実際に展示・使用する創作茶席の提案を、7月29日〔水〕を応募締切として募集しました。第一次審査を通過した作品は、応募学生自らが原寸大の茶席を審査会場に制作し、今回の第二次審査で最優秀作品が選定されます。10月に銀座三越にて展示・使用される最優秀作品の選考経過をどうぞご覧ください。



写真:2025年最優秀作品「月雲」(日本大学)

関連企画

銀茶会

「学生創作茶席」

日時	10月25日〔日〕(詳細は銀座公式Webサイトをご覧ください)
展示期間	10月22日〔木〕～10月26日〔月〕
会場	銀座三越9階 銀座テラス・テラスコート (東京都中央区銀座4-6-16)
主催	銀座通連合会
協力	日本建築学会

Report

日本建築学会創設140周年記念行事

佃悠

横浜国立大学准教授 日本建築学会事業理事

2026年の今年、日本建築学会は140周年を迎えた。本会の誕生は、1886年4月9日に造家学会が設立されたことに遡る。創設時は、辰野金吾ら26名が創設者として名を連ねた。現在では、約38,000名の会員を要する日本有数の学術団体である。

140年の長い歴史の中で、日本建築学会を取り巻く社会情勢は大きく変化してきた。特に昨今では、人口減少や高齢化、長引く国外での戦争や紛争、物価・工事費の高騰とそれに伴う着工数の減少、また熟練技術者の退職と若年層の減少による人材確保の急務化など、建築が直面する情勢は大きく変動し、不安定化してきているとも言える。さらに、AIの急速な進展による技術革新スピードの高速化やコミュニケーション方法の変化など、建築技術自体の変化も迫られており、将来予測が非常に難しい状況でもある。

そのような大きな変化の中で抛り所となるのはなんだろうか。これまでに先人たちが培い、さらにそれを土台に更新し続けられる「知の蓄積」、ではないだろうか。本会には多くの研究委員会が設置され、活発な調査・研究・発表活動が行われている。また、論文集、技術報告集、JABEE、作品選集といった学術誌、建築雑誌や建築討論といったメディアによる情報発信、年に一度の大会や各賞の授与など、新しい知を生み出し、公開し、記録するという活動が蓄積されてきた。

1年を通して実施される140周年記念行事では、この難しい時代において、学会のこれまでの知の蓄積を再考し、共有することで、150年、さらにはその先に向けて、本会が目的とする「建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達をはかること」を推進していくことが目指されている。

主要事業として、過去・いま・未来を考える三つの事業を実施する。「過去」では、130周年以降の10年を中心とした略史をまとめる。「いま」では、建築を学んだ後に異なる領域で活躍する表現者たちへのインタビューを通して、「建築的な思考」の可能性を探る。「未来」では、シンポジウムを開催し、未来にむけて考えるべき課題を議論する。さらに、建築文化週間に本部と支部で実施される各事業も、140周年記念行事の一翼を担っている。

50周年では、「進む建築 導く学会」という標語が銘板に刻まれ、学会が建築や社会を導く意思が示された。100周年では、現在の場所に建築会館が移転新築され、活動の器としての機能が拡充された。150周年への途上として、この140周年では、大小多数の事業によって開かれた「対話」の場を提供する。このような場を通して、会員をはじめとした建築に関わる多くの人とともに、これからの「建築」を共に考える機会を重ねていければと思う。

140AJJ

1886-2026

140周年記念事業ロゴ



140周年記念事業Instagramアカウント

本部企画

トウキョウ建築まち歩き2026

見学会

「早稲田遺選」

日時	10月31日〔土〕13:00～17:00
見学先	早稲田大学周辺
集合場所	西早稲田駅 早大理工口 12:45集合
ナビゲーター	大森晃彦（建築メディア研究所代表）
サブオート	加藤詞史（加藤建築設計事務所主宰） 森藤文華＋葛沁芸（2.5 architects共同主宰）
対象	どなたでもご参加ください。 （歩きやすい靴と装備でご参加ください）
定員	30名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	建築文化週間2026特設Webサイトより お申し込みください。

早稲田大学周辺の自然と都市・建築、その歴史をたどりながら散策します。集合は2008年開業の西早稲田駅、西早稲田では60年をむかえる早稲田大学の工学系キャンパスを見学します。その後は隣接する戸山公園へ。江戸時代の大名庭園、箱根山は山手線内で最も高い山です。旧陸軍遺構、戦後の戸山ハイツなど、時代ごとの痕跡を読み解きます。穴八幡神社から神田川へ下り、川沿いを歩きながら大名庭園や神田上水の歴史などを辿り江戸川橋へ。戦災復興計画を背景に整備された緑豊かな早大正門通りを経て早稲田キャンパスへ向かい、大隈記念講堂、演劇博物館、旧図書館などの近代建築を見学します。建築・都市計画・ランドスケープを通して、早稲田の地に積層する歴史を体感するまち歩きです。



支部企画 北海道支部

見学会

「当別町の建築文化遺産を巡る見学会」

日時	10月17日〔土〕12:00～18:00 (12:00 集合・出発/12:00～17:00 見学会/18:00 解散)
見学先	当別町周辺/湯山宅主屋/伊達別邸/当別神社/ 日野宅主屋/当別蒸留所(旧弁華別小学校体育館)
集合場所	12:00 札幌駅集合 11:45 受付(詳細は参加者に別途通知)
解説者	北海道支部歴史意匠専門委員会委員 武部建設株式会社
対象	どなたでもご参加ください。
定員	30名(申込先着順)
参加費	無料
申込方法	10月10日〔金〕までに、QRコードへの回答、 またはE-mailやハガキにて 「氏名・年齢・所属・住所・電話番号」 を明記のうえ、お申し込みください。



主催 日本建築学会北海道支部
申込先・問合せ 札幌市立大学 金子晋也研究室
〒005-0864 北海道札幌市南区芸術の森1
TEL | 011-592-2659
E-mail | s.kaneko@scu.ac.jp

北海道当別町は、明治4（1871）年、旧仙台藩岩出山領主・伊達邦直公が家臣団を率い、不屈の精神で切り拓いた歴史を持つ地です。本見学会では、開拓期の苦難から明治・大正・昭和を経て豊かな農村へと至る変遷を、現存する建築遺産を通して学びます。



支部企画 北海道支部

第51回

「北海道建築賞（2026年度）」
表彰式・記念講演会

日時	10月23日〔金〕18:00～20:00
会場	北海道大学遠友学舎（北海道札幌市北区北18条西7）
講演者	北海道建築賞受賞者
対象	どなたでもご参加ください。
定員	80名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	申込不要。直接会場にお越しください。
主催	日本建築学会北海道支部
問合せ	日本建築学会北海道支部 TEL 011-219-0702 / FAX 011-219-0765 E-mail aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

2026年度第51回北海道建築賞を受賞された方々に、受賞作品を語っていただき、その後パネルディスカッションを開催いたします。



撮影：小澤丈夫

支部企画 東北支部

第36回

「東北建築作品発表会」

日時	10月3日〔土〕9:50～16:06
会場	オンライン（Zoom）
発表資格	第47回東北建築賞作品賞の応募者
発表部門	発表部門は次の2部門とする。 小規模建築物部門 延べ床面積500平方メートル未満の建築物を対象 一般建築物部門 延べ床面積500平方メートル以上の建築物を対象 どなたでもご参加ください。
対象	
定員	70名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	日本建築学会Webサイト「催し物・公募」欄より お申し込みください。
主催	日本建築学会東北支部
問合せ	日本建築学会東北支部 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-5-15 日本生命仙台台勾当台南ビル4階 TEL 022-265-3404 FAX 022-265-3405 E-mail aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp

東北地方における優れた建築活動を広く人々に知っていただくとともに、それを記録し、設計者や建築関係者の相互の研鑽の場として、東北地方の建築における共通課題を探索します。また、本発表会での発表ならびに質疑は、東北建築賞作品賞の第一次審査の対象といたします。

第36回 東北建築作品発表会
プログラム

日・時 2026年10月3日（土）9:50～16:06

会場 オンライン（Zoomミーティング）

参加費 無料（会員、会員外問わず）

申込 事前申込制（定員70名、定員になり次第締切） ※詳しくは下記QRコードをご覧ください

問い合わせ 一般社団法人 日本建築学会東北支部 TEL 022-265-3404

【主催】
本日本建築学会は、
設計者・建築関係者の相互の研鑽の場として、
東北地方の建築における共通課題を探索し、
東北地方の建築を広く人々に知っていただくことを
目的としています。

東北建築作品発表会は東北地方における優れた建築活動を広く人々に知っていただくとともに、それを記録し、設計者および建築関係者の相互の研鑽の場として、もって東北地方の建築についての共通課題の探索にあたることを目的としております。また、第36回東北建築作品発表会で発表された作品は、第47回東北建築賞の候補作品となっており、第1次審査をかねております。



支部企画 関東支部

見学会

「シリーズ名作をみる
——紀尾井清堂」

日時	10月7日〔水〕14:00～16:00（受付13:30～）
見学先	紀尾井清堂（東京都千代田区紀尾井町3-1）
解説者	蛭田和則（内藤廣建築設計事務所取締役）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	50名（申込先着順）
参加費	2,000円
申込方法	関東支部Webサイトをご覧くださいのうえ、 お申し込みください。 http://kanto.aij.or.jp/
主催	日本建築学会関東支部
協力	倫理研究所 内藤廣建築設計事務所
問合せ	日本建築学会関東支部 TEL 03-3456-2050 E-mail kanto@aij.or.jp

今回は、紀尾井清堂をご紹介します。紀尾井清堂は、建築家・内藤廣氏の設計による、あらかじめ特定の用途や機能を決めずに計画されたという極めてユニークな建築です。一辺15mの巨大なコンクリートキューブを多角形の4本柱で持ち上げ、その周囲をガラスの皮膜で包み込むという特徴的な構成を持っています。圧倒的なコンクリートの量塊と、トップライトから降り注ぐ光が織りなす力強い空間が広がります。通常は公開されていない施設ですので、貴重な機会に奮ってご参加ください。

支部企画 関東支部

構造デザインフォーラム2026
第31回「社会・芸術・技術を紡ぐ
構造デザイン」

日時	11月11日〔水〕15:00～18:00
会場	建築会館会議室（東京都港区芝5-26-20）および オンライン
登壇者	講演者 NEY & PARTNERS JAPAN関係者ほか（4名程度） モデレーター 斎藤公男（日本大学名誉教授） 司会・主旨説明 田村恵子（金箱構造設計事務所／設計WG）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	建築会館会議室 60名（申込先着順） オンライン 80名（申込先着順）
参加費	会員1,000円、会員外1,100円、 学生（会員）500円、学生（会員外）550円
申込方法	関東支部Webサイトをご覧くださいのうえ、 お申し込みください。 http://kanto.aij.or.jp/
主催	日本建築学会関東支部構造専門研究委員会
問合せ	日本建築学会関東支部 TEL 03-3456-2050 E-mail kanto@aij.or.jp

1995年にスタートした構造デザインフォーラム（Structural Design Forum: SDF）は、本年で第31回を迎えます。本フォーラムではこれまで、構造関連の受賞経験を有する技術者や、注目されるプロジェクトを手がけたエンジニアにご登壇いただき、構造設計の魅力を社会に発信してきました。

本年は、本年1月に49歳という若さで逝去されたNEY & PARTNERS JAPANの渡邊竜一氏のご功績に光を当て、その歩みと思想を振り返る機会として企画しております。渡邊氏が手がけた構造デザインは、数々のプロジェクトを通じて国内外に影響を与え、社会と構造の関係性に新たな視点をもたらしてきました。本フォーラムではその足跡を共有するとともに、これからの構造デザインの可能性について考える場といたします。

また近年では、「アーキニリング・デザイン展（AND展）」との連携を図りながら企画を進めており、本年も関連作品の模型およびパネル展示を企画しております。



支部企画 東海支部

見学会

「建築ウォッチング
——ザ・ランドマーク名古屋栄」

日時	10月17日〔土〕13:00～15:00 （都合により変更の可能性あり）
見学先	ザ・ランドマーク名古屋栄 （愛知県名古屋市中区錦三丁目2501番1）
集合場所	申込締切日以降に参加申込者へ連絡予定
対象	一般（小学校以下は保護者同伴）
定員	30名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	9月4日〔金〕までに、 東海支部Webサイトの専用申込フォームから お申し込みください。 https://tokai.aij.or.jp/
主催	日本建築学会東海支部事業委員会
協力	竹中工務店
問合せ	日本建築学会東海支部 「建築文化週間 建築ウォッチング」係 E-mail tokai-sibu@aij.or.jp FAX 052-201-3601

名古屋唯一の商業エリア「栄」の中心に位置し、栄エリアで最も高い約211mの建物となる本物件には、大規模オフィスのほか、東海エリア初の「コンラッド・ホテルズ&リゾーツ」、栄エリア初の「TOHOシネマズ」、J. フロント リテイリンググループによる高級商業施設「HAERA（ハエラ）」が整備され、希少性の高いエリア中心地に高度な都市機能が複合・集積します。

設計者、事業主（調整中）、施工者（調整中）からの解説を交えながらビルを見学いたします。ぜひ、ご参加ください。



支部企画 北陸支部

とやまたてもの探偵団2026

見学会

「能登半島地震復興プロジェクトの見学」

日時	10月3日〔土〕10:00～16:06（現地集合、現地解散）
見学先	石川県輪島市／大崎漆器店／らいか堂／ 谷川醸造醤油蔵・木桶小屋／ 本町地区・朝市通り周辺ほか
講師	森本英裕（レトロフィット） 山本周（山本周建築設計事務所） 萩野紀一郎（萩野アトリエ／富山大学准教授）ほか
対象	現地集合が可能な方（小・中学生は保護者同伴）
定員	20名（申込先着順）
参加費	実費
申込方法	9月18日〔金〕までに電話もしくはE-mailにて、 「氏名、所属先、連絡先（TEL、FAX、E-mail）」を 明記のうえ、お申し込みください。
主催	日本建築学会北陸支部富山支所
申込先・問合せ	富山大学 芸術文化学部 萩野紀一郎 TEL 090-9841-8968 E-mail kbhagino@gmail.com
備考	被災地の状況次第では、見学場所、 スケジュールに変更が生じる場合がございます。 あらかじめご了承ください。

2024年1月の能登半島地震は、能登だけでなく北陸地方の広範囲に、多大な被害をもたらしました。その後インフラの復旧や解体が進み、昨年あたりからようやく修復や再建なども動き始め、さらに今年になって修復や再建が進行してきています。そこで今回は、昨年に続き、輪島市内の修復や再建プロジェクトを視察いたします。昨年見学したプロジェクトの中には、工事が完了したものもあり、昨年は計画段階でしたが工事段階に進んだものもあります。それらの視察を通じて、復興の進捗を肌で感じてもらい、建築・街並みや地域の保存や再生について考える機会とします。



支部企画 北陸支部

見学会

「能登町宇出津地区のまち歩き
——能登半島地震からの復興と
地域資源の継承」

日時	10月18日〔日〕13:30－（1.5～2時間程度）
見学先	石川県能登町宇出津地区
解説者	豊島祐樹（金沢大学講師）
対象	現地集合が可能な方（中学生以下は保護者同伴）
定員	15名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	10月2日〔金〕までにE-mailにて、 タイトルに「2026年石川支所見学会申し込み」、 本文に「氏名、所属先（学生の場合は学年も記載）、 連絡先（TEL、E-mail）」を明記のうえ、 お申し込みください。
主催	日本建築学会北陸支部石川支所
申込先・問合せ	石川工業高等専門学校 建築学科 秦明日香 E-mail a.hata@ishikawa-nct.ac.jp

能登町宇出津地区は、能登半島内浦側の港町として発展し、漁業や祭礼、商業を背景とした生活文化とまちなみが今も残る地域です。宇出津には、地域の暮らしを支えてきた民家や商店、銭湯などが点在しており、近年では既存建物を活用した交流拠点や店舗づくりの取り組みも見られます。2024年1月に発生した能登半島地震では、宇出津地区においても歴史的建築物や生活空間に大きな被害が生じました。本見学会では、宇出津地区を歩きながら、宇出津港周辺や大屋根広場、宇出津コミュニティラガ、既存民家を活用した拠点・店舗等を見学し、被害状況および復興の過程、地域資源を未来へ継承するための取り組みについて学びます。



支部企画 北陸支部

講演会

水野一郎先生講演会
「金沢の建築と街づくり」

日時	10月25日〔日〕14:00－16:00
会場	福井大学 工学系2号館 223L教室
講演者	水野一郎（金沢工業大学名誉教授／ 金沢計画研究所相談役）
対象	どなたでもご参加ください（学生歓迎）
定員	100名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	9月19日〔土〕までにE-mailにて、タイトルに「2026 福井支所講演会申込」、本文に以下の①－③を 明記のうえ、お申し込み下さい。 ①氏名／ ②所属先（学生の場合は大学名と学年を記載）／ ③連絡先（TEL、E-mail）
主催	日本建築学会北陸支部福井支所
申込先・問合せ	福井大学 工学部 建築・都市環境工学科 菊地吉信 E-mail ykikuchi@u-fukui.ac.jp

長年にわたり北陸の建築文化をけん引されてきた水野一郎氏（金沢工業大学名誉教授／金沢計画研究所相談役）を福井にお招きし、講演会を開催いたします。

建築と地域性のかかわりや地域社会への建築の貢献といった観点から、金沢の建築と街づくりの歩みを報告いただくとともに、モダニズム建築や近代的都市計画の国際的規範と地域固有性とのせめぎあいを、福井・富山の歩みを加えながら考えます。

本講演会を通じて、福井の建築とまちづくりの豊かなありようを思い描くための契機といたします。



©金沢市

支部企画 近畿支部

近代建築見学会およびシンポジウム

「兵庫県営繕課・光安義光設計
兵庫県庁舎1号館・2号館・旧議場棟」

日時	10月9日〔金〕13:00－16:30
見学先	兵庫県庁舎（兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1）
会場	｜シンポジウム｜ 神戸市教育会館404号室 （兵庫県神戸市中央区中山手通4-10-5）
集合場所	お申し込みいただいたのち、ご返送する 参加証にて行事の詳細とともにご案内いたします。
見学会解説者	笠原一人（近畿支部近代建築部会主査／ 京都工芸繊維大学准教授）
講演者	｜シンポジウム｜ 竹山清明（生活空間研究所主宰） 沢田伸（全国ヘリテージマネージャーネットワーク 協議会相談役） 笠原一人（前掲）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	40名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	FAXまたはE-mailにて、「氏名、所属先、連絡先 （TEL、FAX、E-mail）」を明記のうえ、 お申し込みください。なお、近畿支部Webサイト からもお申し込みいただけます。
主催	日本建築学会近畿支部近代建築部会
申込先・問合せ	日本建築学会近畿支部事務局 TEL 06-6443-0538 / FAX 06-6443-3144 E-mail aij-kinki@kfd.biglobe.ne.jp 近畿支部Webサイト http://kinki.aij.or.jp/

日本の公共建築は、戦前にはそのほとんどを自治体の営繕組織内部において「自前」で設計していました。しかし戦後になると、復興期や経済成長期の仕事量の増大により自治体の営繕組織内部ではまかない切れず、民間の設計会社や著名建築家に外注されるようになります。その結果、自治体の営繕組織は、戦前に誇った高い設計力を失っていきました。ところが兵庫県では、戦後も長らく営繕課が優れた設計力を持ち続け、良質なモダニズム建築が生み出され続けていました。その中心に、同課の課長を務めた光安義光（1919－99）がいました。光安は営繕課が「自前」で設計し続けることにこだわり、企画や計画から設計、監理までを営繕課でまかない、良質な公共建築を次々と実現させました。それは光安が、県の職員がすべての公共建築の設計を担当し技術力を高めることによってこそ「県民に本当の意味で奉仕できる」と考えていたことに由来します。そしてその集大成となるのが、兵庫県庁舎でした。今回は、解体されることが決まっている兵庫県庁舎1号館・2号館・旧議場棟（1964-70年）の見学会と、光安義光の薫陶や影響を受けながら兵庫県営繕課の技師として活躍した竹山清明氏と沢田伸氏をお招きしてのシンポジウムを合わせて開催し、兵庫県庁舎や兵庫県営繕課、そして光安義光について振り返ります。

支部企画 中国支部

研究交流会

「学生と考える中国地方の
都市と暮らし」

日時	10月17日〔土〕14:00－17:30
会場	ひろぎんHD本社ビルトモロウスクエア内 イベントスペース（広島県広島市中区紙屋町1-3-8）
講演者	学部生、大学院生、 社会人（中国支部都市計画系研究室出身）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	40名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	中国支部Webサイトの専用フォームから お申し込みください。 https://chugoku.aij.or.jp
主催	日本建築学会中国支部都市計画委員会
問合せ	広島大学大学院 先進理工系科学研究科 建築学プログラム 田村将太 E-mail tamuras@hiroshima-u.ac.jp

2025年度日本建築学会中国支部研究発表会（都市計画分野）において、「若手優秀発表賞」を受賞した学生の発表を中心とする研究交流会を開催します。現在の中国地方では、人口減少や少子高齢化を始めとして、中心市街地の活性化、観光振興、防災・減災など、多様な都市・地域課題への対応が求められています。本企画では、主に中国地方をフィールドとした調査・研究事例の発表を通じて、地域資源の活用や生活環境の質の向上に関する研究成果、人流データや3D都市モデルなどの先進的な分析手法など、都市計画分野における最新の知見を共有します。また、研究者・学生だけでなく、実務者・市民からの広い参加と交流を促進し、これからの中国地方の都市と地域のあり方について考える機会とします。



ワークショップ

「OCR 100mコースに
「屋根」と「賑わい」を架けよう」

日時	10月12日〔月・祝〕13:00～16:00（開場12:00）
会場	INBE NINJA BASE内 「オブスタクルスポーツ吉野川コース」 （徳島県吉野川市鴨島町知恵島683）
対象	どなたでもご参加ください。
定員	30名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	四国支部徳島支所Webサイトにてお知らせします。 https://sites.google.com/site/aijsctksm/
主催	日本建築学会四国支部徳島支所
協力	松島組
問合せ	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 小川宏樹 E-mail wogawa@tokushima-u.ac.jp
備考	ワークショップの参加者に限り、 当日10時より吉野川コースを無料で ご利用いただけます。 詳細は参加希望者にご案内いたします。

2024年4月、徳島県吉野川市に、日本オブスタクルスポーツ協会公認の「オブスタクルスポーツ吉野川コース」が完成しました。オブスタクルとは「障害物」の意味で、全長100メートルのコースにさまざまな障害物があり、全て乗り越えてゴールまでたどり着くタイムを競う競技です。吉野川コースは、国際オブスタクルスポーツ連盟の規程に則った、OCR（オブスタクルコースレーシング）100mコースで、国内ではこの施設のみです。2028年のロサンゼルスオリンピックでは、近代五種競技の中にオブスタクルスポーツも採用されることになっており、吉野川市では、大規模な大会も開かれるなど、地域の活性化の一翼を担う存在になりつつあります。

オブスタクルスポーツを通じて、吉野川市と世界が繋がり、これを契機に豊かな地域資源にも目が向くことで、地域の賑わいづくりに寄与できると考えられます。そこで今回、地域スポーツとまちづくりに注目し、「オブスタクルスポーツ吉野川コース」を題材にワークショップを行うことで、オブスタクルスポーツを通じたまちづくりの可能性を考えます。



見学会

「縮小社会の地域づくりを学ぶ
——宮崎県における
子ども参画まちづくりの展開」

日時	10月17日〔土〕10:00～17:30
見学先	都農町・日向市役所・日向市総合体育館
集合場所	JR宮崎駅 10:00集合
解説者	中川敬文（伊ツノマ代表取締役） 日向市職員
対象	どなたでもご参加ください。
定員	40名（申込先着順）
参加費	無料
申込方法	メールもしくはFAXにて、 「氏名、所属、年齢、住所、TEL、E-mail」 を明記のうえ、お申し込みください。
主催	日本建築学会九州支部宮崎支所
後援（予定）	宮崎県・都農町・日向市／宮崎県建築士会／ 宮崎県建築士事務所協会／ 都城工業高等専門学校建築学科
申込先・問合せ	都城高専建築学科 杉本弘文 E-mail sugimoto@cc.miyakonojo-nct.ac.jp

人口減少・少子高齢化が進む中、地方都市では、地域の持続性をどのように確保し、次世代とともに未来を描いていくかが大きな課題となっています。これからの地域づくりに求められるのは、子どもを「守る対象」「支援する対象」として捉えるだけではなく、地域の未来をともに考え、行動する「担い手・共創者」として位置づける視点です。

本見学会では、宮崎県都農町において実践されている、子どもが地域の将来像を考え、大人と対話しながら地域活動や公共空間の活用に関わる取り組みを視察します。さらに、日向市総合体育館では、子どもから高齢者まで誰もが利用でき、交流や憩いの場、防災拠点として機能する新たな公共施設づくりについて学びます。

社会の前提が変化している中で、人口減少を単なる課題として捉えるのではなく、地域づくりのあり方を見直す機会として捉え、行政・学校・地域・民間が連携しながら、次世代とともに持続可能なまちを育てる方法をともに考え、参加者それぞれの地域でどのように実装できるのかを考える契機となることを期待しています。



実験の場としての建築展覧会

川勝真一

建築センターCOAK代表理事

建築文化週間における建築展覧会は、2022年に始まった比較的新しいプログラムだ。企画の立ち上げから関わり、これまでの4回の展覧会では、その時々、社会的な状況を踏まえ、それらがどのように建築的な思考や実践を更新しうのかを問おうと試みてきた。初回の2022年はコロナ禍を反映し、路上での活発なアクティビティを可能にするツールの存在に目を向けた「Street Tools」展を企画した。続く2023年は、「繕いの営み／営みの繕い」と題し、近年注目されている修理やメンテナンスの思考を反映した若手建築家たちの建築的実践を紹介した。2024年は全国各地で盛り上がる建築公開イベントの動向を踏まえ、建築を案内することが持つ創造性について考えた「ガイダンスのアーキテクチャー」展を開いた。昨年は会期中に閉会予定だった大阪・関西万博の存在を仄めかすような「あとち」というタイトルを掲げた。これらの企画は、公益性の高い組織である日本建築学会主催という点を踏まえ、特定の建築家の紹介ではなく、むしろ特定のテーマのもとに建築界の多様な活動を可視化することが意識されてきた。また、研究者やデザイナー、編集者やアーティストなどにも出展者として参加してもらい、他領域との接続も図ってきた。豊富な予算がつくわけではないが、特定の企業や主題に縛られることなく、ともすると保守的になりがちな学会主催の企画でありながらも、関係者の努力と熱意によって、毎回、実験的な建築展が実現されてきた。

毎年の会場となる建築博物館ギャラリーは、建築会館一階の中庭に面している。このギャラリースペースは、学会内に建築博物館が立ち上げられた2003年に整備された場所で、かつてその一部は資料頒布所として使われていた。そのため展示室としてはやや使いにくいところがある。毎年の企画では、この個性的な展示室をどのように使いこなすかが重要になってくる。とくにガラスの引き戸を開けると内外がつながる中庭との関係は使い方によっておもしろい状況を作り出せるので、毎回何かしらの仕掛けを意識してきた。初回の展示では内外をつなげるような会場構成のみならず、ギャラリーへのメインアプローチを中庭側からとし、それは4回目の「あとち」でも試みられた。3回目の「ガイダンスのアーキテクチャー」では、中庭に仮設的なガイダンスセンターを設置し、インタラクティブな展示を試みた。この一筋縄ではいかない展示室の存在は、毎回の展覧会をユニークなものにしている一つの要因でもある。



「あとち」展開催風景 | 撮影 篠田優

実は「建築展覧会」という名称の展覧会は、戦前の建築学会にも存在していた。詳しくは参考文献にゆずるが、1927から1942年までの16年間にわたって、建築学会主催で毎年一回開催されている。当初は「本会員の手になる建築作品の展覧会」として企画され、第3回からは会員の最新作品を紹介する展示に加え、「懸賞競技」展示も行われたという。また新聞社が後援となり、講演会なども開催することで、建築学会の活動を社会に広める役割を果たしたとされている。その点は現在の建築文化週間にも通じるものを感じる。しかし満州事変から日中戦争へと軍国主義が浸透する社会状況において、展覧会が政府のプロパガンダ装置として機能してしまっ

た。展覧会はその性格上、今も昔もある種の権威化と容易に結びつく。ゆえに一方的にありかたいもの、素晴らしいものとして作品を提示するのではなく、現在の私たちが向き合わなければならない状況や課題を示し、それに向き合うヒントやきっかけを投げかける場であって欲しいと思っている。そのような場を展示室の中に「建築する」建築展覧会の試みが続いていくことを期待したい。

参考文献

宮下羽未「日本建築学会主催建築展覧会（1927～1942年）——戦時体制下の揺れ動く建築界を映すもの」『建築雑誌』1815号、2026年6月

建築文化週間

AIJ

Architectural

Culture

Week

2026

加速する社会のなかで、わたしたちは何を残し、何を失っているのでしょうか。

日々消費される風景、地図から消失する土地と家、変動し続ける自然、生命。

その一方で、地球への眼差し、使い続けるための修繕や工夫、

そこに関わる人々の営みは、見えないものとして取り残されています。

しかし、そうしたみえない労働やケア、風景や記憶こそが、建築や都市を静かに支え続けています。それらをもう一度社会や記録のなかへ還し、未来へと受け継いでいくこともまた、建築文化の重要な役割ではないでしょうか？

建築文化週間2026では、こうした見過ごされてきたものに目を向け、時間のなかで変化し続ける存在として建築を捉え直す試みに着目し、ひと月に渡って全国各地でシンポジウムや講演会を8企画、展覧会を1企画、ワークショップを3企画、見学会を8企画開催します。

何を記録し、何を受け継ぎ、どのような眼差しを未来へ手渡していくのか。これからの建築文化の可能性を考える機会に、皆さまのご参加をお待ちしています。

問合せ 日本建築学会 事務局 事業グループ 岡元

TEL 03-6456-2056 FAX 03-6456-2058 E-mail bunkaijyo@aij.or.jp

（支那企画については、直接主催支部にお問合せください。）

建築文化週間2026
特設Webサイト

<https://bunka.aij.or.jp/>

